

慶良間諸島国立公園

報告者：環境省那覇自然環境事務所 国立公園保護管理企画官 広野行男

座間味村 村長 宮里哲

この写真からご覧いただけるようなケラマブルーの非日常的な世界、これをゆっくりと味わっていただくということで、慶良間諸島のコンセプトはリトリートという言葉キーワードに取り組みを進めている。慶良間諸島国立公園の位置だが、沖縄本島から約 30~40km ほど西にある。全体としては渡嘉敷村、座間味村の 2 村、渡嘉敷島、座間味島、今日紹介をする阿嘉島という主な島々から成り立つ。高速船でいくと 1 時間とかからない距離にあり、非常に賑やかな那覇から至近の距離で別世界に到達できるというのが非常に大きな魅力だ。

今回の満喫プロジェクトとしての目標は世界水準の国立公園に向けてどう進めていくかということということで、目標は 3 つ書いてある。まとめて言うと、慶良間諸島の自然景観はもともと第一級のものがあるので、これをいかに国立公園としても第一級といえる質を確保するかということに尽きると思う。世界水準の国立公園を目指していこうという中で現在先行的に取り組んでいるのが、阿嘉島での 2 つの整備事業になり、今日はその状況を紹介できればと思う。

1 つは阿嘉島の玄関口における情報拠点施設の整備で、港から着いてすぐのところあるさんごゆんたく館という拠点施設の新たな整備。もう 1 つは島内港から 1km のところのニシ浜という島を代表するビーチがあり、そこで展望のためのテラスを再整備している。さんごゆんたく館という名前だが、ゆんたくというのは沖縄の言葉でおしゃべりという意味で、3 月にはオープンする予定で整備を進めている。サンゴをテーマにした展示を中心に据えて、サンゴを守ることにつながる体験活動を提供することを考えている。リトリートというテーマに対してはゆっくり海を見ながら、地元の人と話をしながらゆっくり時間を過ごしてもらおうということで外構には日陰を作って島の時間をゆっくり味わえるような環境整備を進めている。運営については地元の観光協会を中心に考えている。実際に関わっていただくスタッフの方もサンゴの研究をしていた地元の人で、非常に強い相乗効果がこれから出てくることを期待している。

こちらはニシバマテラスと呼んでいるが、これもまさにケラマブルーを一望できる場所で、今も既存の施設はあるが非常に老朽化をしているので、今回プロジェクトの中で再整備することになっている。1 階~3 階構造になっているが、メインが 2 階部分になる。日差しが強いので夏はゆっくり時間を過ごすことが難しい面もあるので、1 つこういった空間を作ることで海に入らない人もケラマブルーを満喫してもらえるのではないかと考えている。これらは一例で、これから渡嘉敷島、座間味島でもリトリートのコンセプトに沿った整備を進めていきたいと考えている。

座間味村長の宮里でございます。

座間味村と渡嘉敷村を合わせて慶良間諸島国立公園となっている。公園の背景、観光の話でいうと沖縄が復帰した年に国定公園に編入され、それから観光の話が出てきたと思っている。最近の話だとミシュラングリーンガイドジャパンで 2 つ星をもらった古座間味ビーチ、座間味島自体も 2 つ星をもらっている。ダイビング、シュノーケリングで観

光が流行りだした島になるが、最近ではシーカヤック、スタンドアップパドルボードというようなアクティビティ、冬場になるとホエールウォッチングでザトウクジラ、クジラの中でも非常に見えていてクジラだが、クジラを見ながら楽しむ観光地になっている。

今回の発表の中で一番新しいのが慶良間諸島国立公園になるが、3年半前に国立公園に指定された。8万人くらいいた観光客が3.11等の外的要因で6万9,000人まで観光客が落ち込む状況があったが、国立公園の指定というニュースもあり、いろいろな取り組みも含めて観光客が戻ってきた。沖縄県の観光客の話をする、昨日の地方紙にも載っていたが、今年に入ってハワイと沖縄を比べると、沖縄に訪れる観光客の数がハワイへの観光客の数を抜くのではというニュースが出ていた。沖縄県全体が観光に活況で、座間味も同じような状況だ。沖縄県の観光客の数もいろいろあるが、インバウンドは24%で、そのうち東アジアが8割を占めている。座間味村でいうと10万人を超えていて、そのうち15%はインバウンド。15%の内訳だと4割強が東アジアで、4割強が欧米。沖縄県全体の観光の動向とは少し違うような状況ではあるが、もともと私達がこの事業で取り組んでいる目標としている数字に近い。東アジアというよりは欧米を中心にターゲットを絞っていきたいというところがしっかり出てきていると思っている。マスコミの報道によると沖縄での滞在日数は3.78日、ハワイは8.68日。消費額でいくと7万5,000円に対してハワイは20万。座間味、渡嘉敷の数字が出ていないのでそのあたりはこれから調べていかないとはいけませんが、沖縄と変わらないと思うので、そのあたりが私達の大きなテーマになると思っている。

もう1つのテーマとしては夏場に特化した観光客なので、10月～6月をいかにお客様を増やしていくのか。ここが非常に大きなテーマだと思っている。こういった課題を克服するため、ノルディックウォーキング、星空、そういったものをテーマにして新しいアクティビティを開発するところに力を入れている。それと合わせてSNSできれいな星空、海の中、私達が発信するだけではなく来てもらった人達がいかに発信するか、というのが大切だと思っている。沖縄県と連携をして沖縄県と座間味村で光ファイバーを入れて超高速ブロードバンド環境の整備をし、Wi-Fiを整えていくということを今回の事業でやっていきたいと考えている。環境省さんだけの事業ではなく、座間味村や沖縄県と連携をしながら、他の事業も絡めながらいろいろな展開をしていくことが、今後の集客につながると思っている。満喫プロジェクトの目標は1,000万人であるが、そこのお手伝いがどこまでできるかという大変申し訳ないところがあり、私達は離島であるため、少ないと思う。しかし、基調講演を聴いて非常にうれしかったのだが、消費額をいかに上げるかというところも大きなテーマですよねという話があった。私達の人数の目標はそんなに大きくはないが、しっかりと素晴らしい自然環境を活用させてもらい、消費額を上げるというところに着目をして一生懸命に取り組んでいる。インバウンドに関してはそれ以外でもフランス語、スペイン語、英語、中国語ができるスタッフを観光協会が雇うこともしている。そういうことも含めて、村全体で取り組んでいるところだ。産業OSでいうと座間味村の92.4%が第三次産業従事者になるので、島全体でこの事業を盛り上げるには非常に取り組みやすい季節だと思っている。しっかり環境省さんとも連携をして、新しい国立公園なので座間味村、渡嘉敷村への施設整備はしていきたいと思う。